

有益なるお話を聞かせて下さり、梨の接木法なども詳しく教へて下さり、到らざるなき御接待を忝うし、泊つたらさうかたじけなく、迄おつしやつて下さいました。又村

す。それは三月三十一日附を以て町役場より、左の辭令をいたしたる。新秩備林監守人任命。年參拾回。又村

れるだらう事を豫期して居ります。今日之で失禮いたしました。四月二十二日夜。文。子。拜啓。帳簿簿カバ。澤山に御送り下され、有り難う御座いました。

め、かなり疲勞を覚えますが、一日毎に楽になつて、行く様な気がいたつて、當地もいよいよ春らしくなつて、昨日霧の初音を聞きまし。日高の山々の雪も、日毎

つくづく感心いたしました。若先生のお蔭で、深く感謝して居ります。では老先生御身體を御大切に。五月二日。鈴木信雄

内郷村報の 六大使命

一、政黨改進黨を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。

四、村内の善事興行を表彰し、且之を獎勵す。
五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民慈善に當る。

内郷村報

二天ルベシ
一人順ナ
則

七年會

大内民惠

全國三千の讀者諸君中より、君のやつて居る七年會といふのは、抑々何をして居るのかといふ質問を受ける事が、しばしばであるので、最近印刷した「七年會案内」を、そのまゝに採録いたしました。之によつて御了承下さるゝ同時に、一家を更生せんとする、戸主長男、一身を立てんとする、二男三男を、陸續御紹介下さらん事を、此機會に於て、御願ひいたしておきます。

◎七年會の概況

今や我國は非常時！國を擧げて其對策を講ぜられつゝあり。東北地方の者は、特に農村の更生から始めなければならぬ事と存じます。限られたる土地の中に、限りなく殖えて行く人口を、どうするかといふ事も重大なる問題であると思ふのであります。即ち人口過剩調節であります。但しこの問題は、最近二十年以來憂國の士によつて叫ばれて居る事は一般のよくわかつて居る事でありませぬ。私なども大正十二年に、之を鑑みる處あつて故澁澤子爵、故淺野翁、當時の岩田福島縣知事等の御

贊助の下に、七年會といふものを創立いたしましたのであります。而して其本領とする處は勤儉興産であつて、農村の二男三男を募集して一定の職業（警城炭礦採炭作業）を興へて、三ヶ年に約五百圓の貯金をさせる方針を立て、其間に修養をさせ、配遇者を得させて海外に移住させるとか、内地で獨立させるとかして、あと四ヶ年、即ち前後合せて七年間で、生活の安定を得させる様に、御世話をしたのであります。又其と共に、農閑期間、農村の人々を迎へて、一ヶ年間の農桑資金を働かせる事や、一般の勞務希望者をも收容して懇切に御世話をいたして來たのであります。爾來今日まで

十四年間、之を繼續し經營して相當の成績をあげて参つたのであります。左に参り考までに昨年十一月から今年四月迄に於ける六ヶ月間の本會の概況を申し上げます。一、一日平均在籍會員は、百十人五分で、其延人員は、二萬百一十一人でありませぬ。二、之等の會員は、大抵一日平均二圓、月に五十圓内外の収入を見、食費及諸経費は二十圓以内であつて居ります。中には月に八九十圓位の稼ぎをした者も數人ありました。三、農閑期會員は四十余人で、何れも百圓乃至百九十圓のお土産を持つて、歸國いたしました。四、農閑期會員中、炭礦勞働の有利なるを喜び、負債償還の爲に、又は田畑買入資金を得る爲に、引きつゞき二年乃至五年を期して、ふみ止まつて居る者も數人ありませぬ。かういふ人々は、眞に勤儉力行で、経費としては一日四拾五錢の食費以外、殆んど一錢もつかはないので、月に三十圓乃至五十圓を貯金するか、送金するかにして居ります。

一、本會書記 福島縣認可募集從事者 馬場善信が會員募集事務にあつて居ります。

二、滿十六歳以上、四十歳迄の男子で、身體強健、思想堅實なものは、何時でも歓迎いたします。

三、入會希望者は、單獨で眞直ぐに來られてもよいし、各地職業紹介所に聯絡をとつてありますから、最寄りの職業紹介所に申込まれるれば、運賃は半額で來られます。其區域は奥羽六縣、東京市及埼玉群馬千葉茨城栃木新潟の六縣であります。

四、若し體格検査、人物試験で、不合格の場合は、歸る旅費はこちらから差上げます（但し當分）。

五、入會者が五人以上もまゝならば本會から迎へを差上げてよろしう御座います。又團體から御申込みがあれば、何時でも當方から參上して、七年會や、警城炭礦の状況は勿論、社會問題、宗教問題、社會問題等について講演をいたします。

六、常警線發着で下車して警城炭礦七年會におたづねになれば、すぐにわかかります。又其時間がかれば驛までお迎へに出来ます。

七、世間一般が、炭礦は地下で仕事をするので危険だといはれて居りますが、怪我は疊の上でも申しますし、統計によると、

一ヶ年一千人についての犠牲者は僅か三人だけです。當炭礦には幾十年も働いて居つても、怪我だら一つしな人が澤山に居るのであります。

八、本會には數千冊の圖書及雜誌等を備へて置いて隨意縦覽に供し、内郷村報と稱する新聞も發行して居ります。又各會員と個人面接の方法で、處世上、修養上の指導を怠らざるは勿論、結婚の媒介等もいたして居ります。

九、本會では獨身者に限つて收容して居りますが、又妻帯者をも歓迎して、住宅其他の御世話をいたして居ります。

十、警城炭礦には、本會の外に設備のよい合宿が幾つもあつて、岡谷兼廣、圓谷清、川口善次、茅根市太郎、小豆畑仁左衛門、飯尾健太郎の諸氏が同じく本縣認可の下に従業員募集事務に従事して居ります。

福島縣方面委員 聯理理事 同 社會事業協理理事 同 海外移住協理理事 同 海外移住組合監事 同 海外移住組合監事 同 海外移住組合監事 同 海外移住組合監事

七年會長 大内民惠
同 書記 馬場善信
外係員數名

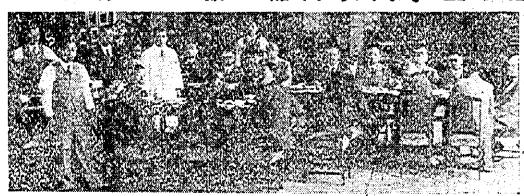
◇勤儉興産は本會の本領
奮闘の生活に不景氣なし
◇天法人則に従順なるべし
（大内家々憲）

本報發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

行發日五十一月一
印刷所 平活版所

全村全山臺所の一大革命 寺岡式大合理炊事法

記者は、多年各食料品の榮養價を損せず、簡易に、經濟に、しかも風味よく調理する方法は、ないものかといふ事を、始終考究して居つたのであるが、今回圖らずも、帝國榮養研究所長寺岡正一氏の「大合理炊事法」(同法)の發明の特許炊事器の使用)の實際を見るに及んで、確かに此問題を解決したかの感にうたれて、欣快に堪へないのである。去る二日、内郷家政女學校に於て、第一回の講習會を開催するや、恰も池面に一石を投じたるが如く、全村全山に、一大波紋を描き、高坂尋高校、第二内町校、宮澤峯根、竹内、御殿の、各塾



師講岡寺は衣白 會食試の氏諸部幹炭盤

炭從業員俱樂部と、矢繼早やに、其講習會が開かれ、磐炭健康保險并に同務務課に於ては、特に二日に涉つて、淺野翁記念館に開催、濱崎副所長、會田院長、上原務務課主任、山崎健保理事、各坑務務擔任等の、主腦部諸氏も、之を見學し、試食して、其奇蹟的ともいふべき調理法の効果の眞に合理的なるに感嘆し、菅原所長亦其報告を徴して、是非之を全從業員に普及する様にせよと、命令を發せらるるに至つた。僅か旬日の間に開講十回、受講者實に八百五十余名の盛況を見、直ちに其炊事器及調理法を利用してせられた家庭は百餘戸の多數に及び、講習會開催申込み殺到の有様である。記者は、以上の成績に鑑み従來微力を致しつゝあつた

生活改善事業の一部として新に食物調理法改善部を特設し、別に調理士を養成して、全縣下に涉つて、之が普及を計る事とした。其規定は、別項掲載の通りである。

方面事業取扱數

一、本會が福島縣私立生活改善會ト稱シ、其ノ本部ヲ當分石城郡内郷村ニ置キ、風俗習慣、各種選舉、及ヒ衣食住等ノ、研究改善ヲ計リ、之ガ實行ヲ期スルヲ以テ目的トス。
二、本會ニ會長一名、理事、書記、發助員各若干名ヲ置キテ其事務ヲ擔當スルモノトス。但シ發助員ハ縣下ノ特志家并ニ方面委員ヲ依囑推薦スルモノトス。
三、本會ノ事業狀況ハ毎月一回内郷村報生活改善欄ニ於テ報導スルモノトス。

◎福島縣私立生活改善會 食物調理法部

一、本部ハ本會ノ目的ヲ達成センタメ、食物ノ研究ト之ガ調理法ノ改善普及(寺岡式炊事器使用)トヲ計ルヲ以テ目的トス。
二、本部ニ食物調理法研究所ヲ置キ、調理士ヲ養成ス。但シ其ノ養成規定ハ別ニ之ヲ定ム。
三、本部ニ於テハ、隨時各地ニ調理士ヲ派遣シテ、食物調理法ノ講習會ヲ開催シ、之ガ普及ニ從事セシム。但シ其ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム。

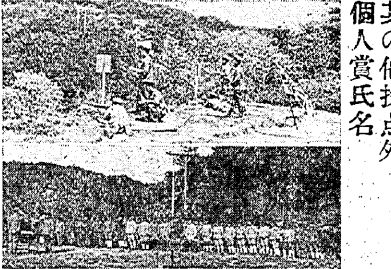
警炭分會行事

(長塚理事報)
現下重大なる時局に鑑み、在郷軍人の七氣を振作し、有事に處する技術練磨の目的を以て、去る五月十五日左の次第に依り、行軍と射撃大會を舉行した。

午前七時三十分、淺野翁頌徳記念館前廣場に整列、會長よりの訓示、行軍指揮井上行軍巡路並に行軍上の諸注意服裝の検査を受け、歩武堂々(行程約二里半)神谷村射場に向つて進發、豫定時午前九時五十分到着、小憩の後、班別競射開始、第一彈の轟きの音に各選拔射手は、必勝の意氣を堅め、標的の廻轉示点竿の動きに一喜一憂極めて緊張裡に、午後四時三十分左表の成績に依り射撃を終つて、記念撮影をなし歸路自動車にて一同無事午後五時歸山した。參會者百廿名射撃成績一各班射手人名、各人五發々射得点左の如し

優勝	綴第一班	二二二点
二	綴第二班	二〇七点
三	綴第三班	一九四点
四	綴第四班	一七〇点
五	綴第五班	一六四点
六	綴第六班	一六三點
七	綴第七班	一三二点
八	綴第八班	一一九点
九	綴第九班	一一九点

其の他採点外個人賞氏名



式與授品賞は下 景光的射は上

月分の件數は左の通りである。生活扶助、法令に依るもの、二四。兒童保護、法令に依らざるもの、四六。相談指導、二七。戸籍整理、四。職業其他の紹介、二五。教化、八。以上計一三四。カード移動、第一種カード登録世帯、三七。人口一三八。第二種登録世帯八五。

日本評論社

東京京橋三丁目
發行所
取次所
内郷村報社

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠 著
服部宇之吉序
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

全村小學校兒童の東京見學

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實感とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に過あらず。未だ一人の抗議者も現はれず。

四萬五千圓喫煙

せられて、たゞの感謝感激に堪へない次第であつた

田保長司式、赤土別當勤行、旭管長代理及二十三ヶ寺住職助法、遍照講員百十八名嘆詠の下に、修理落

日本評論社

東京京橋三丁目
發行所
取次所
内郷村報社

矢野 恒太序 大内民惠著
教育制度改革概論
 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。味し未だ一人の抗議者も現はれず。

發行所 日本評論社
 東京 橋本三丁目

取次所 内郷村報社

十句以内、住所氏名稱職明記の事
 締切 毎月十日
 撰者 石田修二 江連半仙 高木
 撫山共選。選句集は出句者のみに
 配付。届先 宮澤社宅 高木撫山宛

全村小學校兒童の東京見學

内郷 高等小學校報告

去る六月八日、例年の通り本村尋常六年生の東京方面修學旅行を行ふ。引率者として、沼田村長各學校校長及職員學務委員學校醫及看護婦を合せて五十四名、児童總數六百六十一名、それ以後援會幹部及父兄を合せて一行七百三十二名、午前三時五十分東の空の白ひ頃綴驛を立ち、全八時五十分原宿驛に着す。直ちに明治神宮に参拜す。若葉かほる神苑に入るや、寂として自ら頭の下るを覺ゆ。それから百十臺の自動車に分乘し、宮城の御前に額き、靖國神社を拜し、ここにて書食、記念撮影、遊就館見學をなし、淺草の觀音様に詣で、地下鐵によつて上野に出で、動物園を見學し、上野驛に至る。ここに於て磐城炭礦の本社より、兒童及附添一同に對し、澤山の御土産をいたゞき、午後五時十分歸路につく。やがて午後九時三十分、一同無事多數御出迎の中に、綴驛に着す。

通學道路の奉仕工事

綴驛 山崎 辰亥
 綴驛夫社宅より、第二小學校の通學道路中、約百間の個處の修理と、白水川の橋の架け替へとを、豫ねてから計畫して居つた處、いよ／＼五月三日の公休に、有志者百二十九名(男八四、女四五)が出動し、井砂勞務係員指揮の下に、會社より材料、たき殻等をもらひうけ、土止め、地盛り、架橋等を、僅か一日にして完成して立派な道路をつくりあげた。中には六十歳以上の老婦人、乳呑子を背負ふたる若婦人などが、兩手にバケツを下げて、盛土を運搬するなど、愛兒等の爲には如何なる犠牲をも辭せずといふ美しき心情の程を察

四萬五千圓喫煙

水戸地方專賣局平町買捌所管内の、十年度中に於ける小賣業者の買受高を見るに團體としての最高は、磐城炭礦であつて、四萬五千五百九十余圓に達して居る。

阿彌陀堂の修理落慶式

昨年三月に起工し、同七月に本堂の修理完成し、又此程其附帶事業たる監守舎、火防用水池等の竣工を見たるを以て、五月三日に、沼

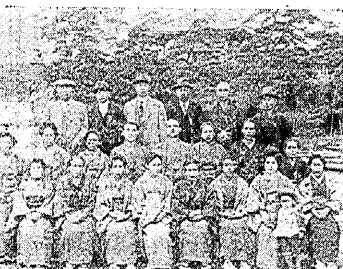
平泉中尊寺參詣團記

國寶阿彌陀堂別當 願成寺住職 赤土興榮

聖跡參詣團一行二十四名を乗せられた。五月九日快晴に乘せられた。綴驛を發し、藩地に陸中平泉驛へ着いた。平泉中尊寺よりは、分家たる内郷白水より一行を歓迎すべく、麓まで出迎はれ、懇ろに途中の聖跡等を説明せられながら漸く本堂に辿り着いた。流石は八百年の往昔、奥州藤原三代の富強榮華を物語る聖跡の地、京都文化版、東山とも稱せし東稻山の礎を流る、北上川、それに合流する古殿場、有名な衣川等を一瞥のうちに納める丘陵をなせる山内は、櫻若たる杉森境をなす。今は僅かに金色堂と經藏を遺して、當時の華麗さを物語つてゐる。想へば初代清衡の女、徳姫がわが白水の

日本評論社

東京 橋本三丁目



影撮念記の行一るけに島松

地に金色堂を築して造營せられ、亡夫則道公の冥福を祈られ、白水阿彌陀堂と思ひ合せて、暫く合掌日本美術に偉大な貢獻をなした徳姫の美しい魂の尊さを、一層しのばれて、この聖地に在りし日の姫の御姿をさへ、彷彿として腦裡に往來し來り、自ら豁然たらざるを得なかつた。數多の國寶を拜觀し中に秘佛として、寶藏に安置せし國寶一字金輪佛は、一行のため特に御開帳せられ、拜觀の光榮に浴した。數々の御厚意に對し、一同篤く感謝の意を表し、辭して毛越寺へ参り、大堂の礎石等歴史的の聖跡を拜し、平泉驛に引き上げ、有志の一行二里餘の巖美溪に自動車を進めて、其奇勝を賞し平泉驛を發して松島驛に下車觀月樓へ自動車を進めて一泊、翌朝水

清水山莊へ 民 惠
 岡山へ出張の折吉備團子に添へて
 磐城には家つこままつものもなみ
 十勝におくる吉備のきびだこ

開拓記 大内 (十)

北海道十勝國上川郡 清水町 清水山莊

一 郎 文子 二 郎 信雄

昭和十年十二月二十日より同本 年三月迄の開拓記録は、紙面に 餘白なきを以て掲載せず。

拜啓 十八日午前五時四十二分、 二本松を出発いたしました。午後四時過 ぎ、秋田大崎に到着、女子伯父宅 に参上、本日零時六分迄、種々御 接待をうけ、午後四時五十分分只 今、青森に到着いたしました。二 本松には、常ちやん、鈴木長市 さん、福島驛では伯母さん、ふみ ちゃんが見送つて下さいました。 一両元氣ですから御安心下さい。 午後六時出帆です。

拜復 本日豫定通り、一同無事山 莊に歸着いたしました。村長御安心 下さい。驛には赤間君夫妻、信雄 君、愛馬花咲が、迎へに来て呉 れましたので、手荷物全部、運搬 出来ましたので、まことに好都合 でした。一寸札幌に於ける、動静 を申上げます。二十日午後七時 五十分札幌に着き、車中旅館信 陽館女将と一緒に早退其處に宿 せました。早退も早く、一 寸軍人會館式の氣持のよい處で した。朝晝兼食一浴後、先づ市外 寮の安孫子大人(註)會津出身農 事試験場長(尊父)を皮切りに、松 野實習場長、大野北大教授邸を 歴訪、午後十時歸宿。翌二十一日 は、北大植物園、園山公園、中ノ 島公園を一巡、觀劇後午後九時七 分札幌を出発した次第でした。安 孫子大人老御夫妻(八十歳、七十 三歳)は、ほんたうに喜ばれ、三 時間ばかり、我々にまつては、真 に有益なるお話を聞かせて下さり 梨の接木法なども詳しく教へて下 さり、到らざるなき御接待を添う じやつて下さいました。又村

報のお禮やら、お父さんを尊敬し て居るなど、申され、頗る恐縮い たしました。松野場長は、生 憎御出張中であつたので、奥様や 御子様方に親しくお目にかかり、 お壽司の御馳走に預り、大野教授 邸に参つたのは 七時半頃でした。 いろいろ御心配 下さいました。 何れも満腹の處 なのに、此度御 両親を煩はした 御禮を申上げ、 敬談數刻赤ちや んからも、大に 愛嬌を振りまか られました。出 発の夜も、教授 御夫妻が、宿ま で御出で下さい ました。 農業世界内郷村 報及御手紙、ま ことに有り難う 御座いました。 黒井將軍からの 御書面、誠に有 り難いこと。 明日は清水市街 に、一同顔見せ に参る豫定です。 如の雪は、溶けてしまひ、今夕は 雨が降つて居ります。山莊も七人 家族で全く賑やかです。家畜連一 同も頗る頑健です。以下次便で申 上げます。二郎公相變らずよろし くだそです。 最後に御報告申上げる事がありま す。それは三月三十一日附を以て 町役場より、左の辭令をいたされ ました。

小生如き若輩が、かうした名譽職 の任命をうけることは、思ひもよ らぬ事、何もかも皆様のお蔭と、 感謝の外なきと同時に、完全に任 務を全うしたいと存じます。 四月二十二日夜 一 郎

お父さん始め皆様が、御元氣に お暮しの由、何よりの事と存じて 居ります。杉田を出発して五日目 自分の筆不精にも、全く呆れかへ りますが、以後は頻りにお便りし たい様に、したいと思ひますから

諸書類を分類整理する上に於て、 非常な便利を得る事と存じます。 厚く御禮を申し上げます。先日黒 井閣下より、昭憲皇太后の 御歌 むつまじく中洲に遊ぶのみとこす らおのつからなる道はありけり を、精本にお見事に御揮毫、結婚 の御祝として、御贈りいただきま した。それから本日は又、参郎の 折の寫眞を送つて上げたのに對し て、御禮の御言葉たまはりに、永 く珍藏記念としておく、切角奮闘 大成を祈る一天 は自ら助くる者 を助く一人生を 醜醜味は、千辛 萬苦の間におり 云々の御葉書を いたさきました。 眞に感激に堪へ ない次第で、我 等は將軍の御高 訓をよく遵奉し 姓になりたいて居 ります。 四月三十日 一 郎

御製 將軍が揮毫せられて下された (半切)

くろかねのまじし人もあるものをなつて下さり大和たましひ いかならん事にあひてもわが我数島ゆきまたましひ 雨たりにくほめる石を見ても知れかたき業さておもひすためや 弓矢もて神のおさめし國人は事なき世にもこころゆるすな

今迄の事は、御許し下さる様御願 ひ申上げます。 今漸く夕食を終へ、薄暗い灯かけ の下で、ペンを取つて居りますが、 遠く離れた、北海道特有の白頭巾、 が、少しも起りませぬ。此調子で す。間もなく此新生活にも、馴 れるだらう事を豫期して居ります。 今日には失禮いたします。 四月二十二日夜 文子

拜啓 帳簿綴りカバ山山に御送り 下され、有り難う御座いました。

拜啓 其後益々御元氣に御過しご の事、大いに安心いたしました。 當方も一同元氣で働いて居ります。 當方より、御放念下さい。只今燕麥の 種時きで、大いに頑張つて居りま す。馬使ひ、故立て等も、相當出 来る様になりました。此頃隔日位 に雨が降るので、困つて居ります。 今日も雨で、腕を撫して、天を眺 んで居りますが、仲々晴れそうも ありません。兄は赤間さんの上様 式で出勤いたしました。昨日泰治 叔父さんから、上等の白砂糖約五 貫目許り戴きました。猶兄貴の頭 を見ては、毎日ラッキーを思ひ 出して居ります。(註)ラッキーは 一郎の大好物早速一樽を送る。 昨日は鶯の初音を聞き、清水山莊 も愈々春らしくなつて来ましたが、 蛙も鳴き出したが、内地では 聞かれぬ様、一種異様な聲です。 左記三名に、今後村報を送つて上 げて下さい。何れも中學の同級生 です。(其住所氏名略す) 五月二日 二 郎

拜啓 清和の候老先生には、お變 りなき事と存じます。先日は村報 の追悼禮をお送り下さいました。報 り難く拝讀いたしました。小生も 頗る元氣です。御安心下さい。 二十二日は、皆様が来られた ので、我山莊も賑やかになりました。 ほんたうに面白かったです。二十五日 からハローを掛け始め、二十九日 燕麥播種に取り掛り始め、去年 年始めての、馬追ひや種時きに比 して、自分の仕事の上達したのにつ いて、感心いたしました。皆こ れ若先生のお蔭と、深く感謝して 居ります。では老先生御身體を御 大切に。 五月二日 鈴木信雄

本紙發行は大内一家の事業にし て、其の社説は子孫に對する遺 言を發するものなり。

一ケ年一千人についての犠牲者は僅か三人だそう です。當炭礦には幾十年も働いて居つても、怪我

内郷村報の 六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義 を標榜す。 二、村内公私各機關の活動状況を報導し 併せて其協調を計り、總親和總努力 の實現を期す。 三、本村社會事業の徹底を期す。

十四年間、之を繼續し經營 して相當の成績をあげて参 つたのであります。左に參 考までに昨年十一月から今

居ります。 二、満十六歳以上、四十歳 迄の男子で、身體強健、 思想堅實なものには、何時

本紙發行は大内一家の事業にし て、其の社説は子孫に對する遺 言を發するものなり。

本紙發行は大内一家の事業にし て、其の社説は子孫に對する遺 言を發するものなり。